

## LAMPIRAN





## DIALOG FILM PARADISE KISS

そこはいつも小橋山い変わりがする、パン屋を先にあって。おもわ授權書があつてしまう、堺の角を曲がって。安西佐賀、いそんでいそんでそながしよ。進んで進んで進んで進んで。以前はバーだったらしき、秘密の区間。彼らはそこ、アトリエと呼んでいた。

(学校で)

先生 : お前は どうにもかごをしてだよ。維持ねやくれだなあ。。。。。。2年で遅れて、3年で遅れて。お前は大学合格するころには土井級世界になさんにしてるのいってなんだ。何で授權しゅちゅうできないんだよ。早坂、人選だめんだよ。

早坂 : だめんだないはかげ、ばねんじゃし！人選するだけ。

私が初めて授權をしたのは、5歳の時だ、もう夢の大学外国通ってだめだった。けれど人生最初の授權は見事に失敗、試験をしたことよりも、先は歩く母がこのままできな割るやったしてて行くんじゃないか

くわかった。だから、私はその時から誰よりも<sup>ひ し べんきょう</sup>皮脂に勉強して。

早坂 : はい、はい、はい。

先生 : 早坂さん。

早坂 : えっと、百二十です。

先生 : はい、結果です。すぎな問題わかるしている？きよかなああ。

早坂 : はい、はい、はい。

先生 : じゃ、早坂さん。。

結果、全国でもゆしゅの根も進学に詭弁事古格。そのころには私よりも遥かにゆしゅの弟も授權する念建ていて。母の興味大きいに弟に迎え。私はすべてから変え法されたように。それが私の初恋だった、私の初恋はそれから3年間。Tittleかたえ想いに変えて巣ついている。

(学校で) (早坂と徳森が学校の廊下でぶつかる)

早坂 : ごめん。

徳森 : ごめん。大丈夫？

早坂 : うん。ありがとう。

---

徳森 : 早坂、じゃな！

早坂　：じゃね。

---

徳森　：ちょっとけいけ！（徳森さんは早坂さんを見ました）早坂、何してるの？

早坂　：あ！違うの！携帯買えてから他のしてる。

徳森　：だったら、新トロよ！

早坂　：いいの？

徳森　：いいけど。

---

（道で）

嵐　　：彼女！彼女っては！彼女！ねねね。。

早坂　：うるさいな！なんばなん予習ですね。ます忙しいの。（嵐を見る）ええ。。すみません、急出るので。

嵐　　：5分

早坂　：本当にさよって！

嵐　　：3分、2分、1p！

早坂　：（逃げる）

嵐　　：おええええ！！！待って！おええ！待って！

早坂　：いやあああ！！！（私は奪われている）（落ちる）

嵐　　：Isabela！

Isabela　：こんなおらでなにをしてるの？

嵐　　：早なんだ、曲げら向かった。（早坂は気絶する）

Isabela　：えええ。どうしますよ？

嵐　　：なんだ、どうしたの？

　　貧血だ、このままじゃ人だった降ろされて、最近もともと練っていない。

Isabela　：通るかく、アトリエに剥離ましょう！

嵐　　：うん。この女の子は重い！Isabela, 足を持ってるの。

Isabela　：え。

　　それが私の前に突然日垣田別の道、押されの駕籠屋さんがあまりをする、パンにお先を曲がって。

（アトリエで）

美和子：大丈夫？気が付いた。（早坂さんがびっくりする）美和子桜田と美和子。お筒に部方のなのでけど、ずっと全然本当まで行ってだから、お猿がないとかなんだ言ったかって。

早坂　：どこ行く？

美和子：私たちのアトリエで。

早坂　：アトリエ？

美和子：うん。ここでよく作ってるの。私たちになって。矢澤学校おくがてしえとだから。

早坂　：あ、矢澤学校。

美和子：してるの？感激。

嵐　　：それのお前うちのは夢イだなあ。

早坂　：通ってするのは見えねえが明かりってねの、白菜難破して保管しているどこするで来ないんですよ。

嵐　　：難破じゃなくですかおことだ。

早坂　：は？

嵐　　：来月家の学校試験補修修理がしらから他枯れ俺たち矢澤ゲンシそっか 3 年生の最後の追わするだ。そのショーのソテジに俺たちがすくった少し手立ってくれる。モデルの女の子探してるの。

早坂　：（私がモデル？）所がんじゃないはよ。私は今が一番大事に受験してなの。受験が迫ってこの中で編んだが史須美氏なって暇ない。帰るね。

美和子：待つて Caroline！

早坂　：誰それ？私？

嵐　　：だって、まだ名前もきてないし。

早坂　：安打委がしないなる名前はないはよ。

---

早坂　：解放ありがとうございます。

嵐　　：ちょっと待つて！

早坂　：何よ？

嵐　　：人が新規にあってることはそれだと、軽視しろ！時間がないからお教化できませんが！

美和子：嵐！

嵐　　：そしてと精鋭だ。夢進学は染まれるか。軽視しろ！

(ジョウジが来て) 前のドアにジョウジさんが立ってる。

ジョウジ：誰？

Isabela：ジョウジ！

美和子：嵐がモデルにしか飛びたのは。

ジョウジ：ええ。。家のモデルに？

(早坂が逃げる)

嵐：厚別区女の子だから！

ジョウジ：いい思いだなあ。

Isabela：だめよ！ころはなこのために作ったながら、スタミナ集中。楽しい昨日他っぼいし。。。私の作るね。

ジョウジ：彼女のために作った料理は俺には君がするないか？丸は同じだなあ。

---

(学校で)

徳森：おはよう！

早坂：おはよう。ね、徳森君、誰からこと怖いてもっとことある。

徳森：ね？

早坂：ね、誰たちの顔に怖い、恋谷だめだ。恋にはそばにあったら私の人生。ポロポロにされるいて、安愛氏よしを感がしたんだよね。たまにゆにて何するか？今アインだと思う。(ジョウジが来て)

ジョウジ：昨日はわせるしたね。あの時だよ、町長で僕魔窯にれられに置いた気月して。。。ばかにするだと、ぼくられて。これはきちんと終わるしなうてできなうてしたんだけど。(笑顔をテーブルを叩いた) 名前なんとだから？

友達：早坂ゆかりです。

ジョウジ：ゆかりか？

友達：ゆかりの彼？

早坂：あ！！徳森君、違うの！これは！(ジョウジがみて) なには！

ジョウジ：だからお詫びに。

早坂：いやないよ！何言っの？

ジョウジ：ゆかり。

早坂：なって呼ばないでよ！

ジョウジ：行こうか！

早坂　：へえ。。ちょっと、ちょっと待って！

---

（車の中で）

早坂　：いやああああ！！おたされてしてなめる！！

ジョウジ：いつまでもいるげない出すんだよ。

早坂　：誰がたつててください！

ジョウジ：自分からもとしてに。

早坂　：きょうでの渡ししたのよ。どこするだけ？

ジョウジ：いやれるところだ。

早坂　：いやああ！！！投げむ投げむ折れられる！！！（車は速く走った）ああ！！！

---

（矢澤学校で）

友達　：ジョウジ、またおくられんぞ！部から絵国ようの中佐所。

ジョウジ：軌道のしてだろう。ここが一番と面せ。

友達　：だから来家くよ！

ジョウジ：ゆかり、ついたそ！

早坂　：ここは矢澤学校？no bra no pant?　このいって？

美和子：Caroline！びっくり！どうしてここに？

ジョウジ：昨日のわびだ。先生のか？

美和子：(mengangguk)

---

如月先生：いいね。

学生　：ありがとうございます。

---

美和子：如月先生！

早坂　：先生？この人は？教育の場変だと。急いては生徒なら気要素清か？

如月先生：外編僕は何怒られるから。

ジョウジ：泉山、折れられんだけど。

如月先生：ジョウジ君、趣味に頼られるんなんと声だなあ。

ジョウジ：杭つかみをなんていうかっこ。

如月先生：hmm.

早坂　：かみ？

美和子：如月先生を家を特別腰だけど。その所定は会計手も勝てはする。部屋めんこ罰の、そうか、Caroline の部屋を style 大変示唆するためにするできたんだ。

早坂　：大変示唆？

ジョウジ：no, no　お詫びだ。髪を着て。

早坂　：うんしょを全部があってない！

ジョウジ：

早坂　：だからモデルの変え割らないているですよ。

ジョウジ：（）お前は思えが変わってなんだ。

かおり：先週は安かった。突然にないか？。。写真のがいいかなあ。見たくない顔が。

ジョウジ：宝木舐めるだなあ。うまくいってないのか。

かおり：全然だめ。会社のデザインからやり直し。

ジョウジ：温品尾するか？

かおり：県かなまらそこ佳代はしたいんしたいし。

如月先生：調べね二人は入学した時からのライバルで、検査債言葉われゆるがった多鵜足のデザインが、って彼女がかおり君の志うのモデルさん、カワイ。

（学校を戻って）

友達1：うわあ。。ゆかり、授業朝持って来てきったの？朝の人って部屋するの人ったんだ？

友達2　：なんてぐらみだ？（笑う）

早坂　：うるさいな！いいですよ。

徳森　：驚いたな。

早坂　：うん。

徳森　：その髪すごきにやってる。僕はカワイと思うよ。（）

---

（家で）

お母さん：名にその髪は？そんな暇があったら、受験勉強はちゃんとしてるの？

早坂　：してる。

お母さん：（はあ）

---

（学校で）



友達 1 : 誰より？誰の人？

友達 2 : 男だなあ？

友達 3 : 男ね。(isabella は早坂を見てる)

友達 4 : 早坂ゆかりです。

Isabela : ありがとう、でもそれはもう尊前持っでは。ごめんなさいね、Carrie。今日はジョウジがそれで誘われてひたなくて。

早坂 : ツンコリがバカバカ彼だ。

---

(矢澤学校で)

Isabela : 今どこしろ？(Isabela が早坂を襲った) あら！ごめんなさい。

美和子 : 待って！ふわ、カワイ。(meletakkan kain ke tubuh 早坂)

嵐 : ねね。難破りモデルさんがいるテレビや新値。

早坂 : あのさ、なんだか昨日からかってにモデらずかってる。私にこと見たいがない。

美和子 : でも、今日来てくれたし。

嵐 : やるっていうバカ。受験するが損でもらえる縄江は。(saling menatap benci)

(j meletakkan kain ditubuh h)

Isabella : すてきね。ヒマワリのドレス。

ジョウジ : すこし花水か？

Isabella : いいえ、Carrie の imagine 着たりと思うんだ。

ジョウジ : 今をね。

美和子と嵐 : はああ？

美和子 : ジョウジ！！

嵐 : (ngedumel) 俺まためんどくさい！Isabela、けったれお前！

Isabela : 区レンジの浸するのけどがしら。

嵐 : 俺お前！

美和子 :

嵐 : やろんどうれたちだよ！

(アトリエで)

嵐 : あ！暑い！

Isabela : ssshhh !

美和子 : ちょすてき。きれいはイマギきたり。

嵐　　：まだあちがるいまたなどなんだろう。

Isabela　：残れしよ、オレンジできないね。

美和子：。。美和子わかるおおないよ。

---

（学校で）

先生　：少し住めて文化替えする学校へ忌まれている。声ことだよ？学校へ待たますだよ。

早坂　：なんだ僕かれ。。

先生　：は？気でしょうか。そういう言って。机人げ困ったな自分の言うのはサボらされこの家は俺どうして？お前自分のことは勝てないんだよ。そんなえんじ。。。とって、イオナいぞ。

---

（学校の屋根の上で）

徳森　：僕ね慣れてないんだろう。そんな

早坂　：いう度は。今私は。。。から

徳森　：へ？

早坂　：人生、人生。私ちゃんと考えている。私さん好きな人はそばにいればそれだけでいいの。私宅なくって、その人がそばに入れただよ。頑張れるじゃない？黒も泥戻れできるし、うれしいでき思う縦。もっと嬉しくないです。私はそれだけという思うだけのな。（お互いを見てる）それだれいってなんだおかないかんあ。徳森君、気がえってにるよね。

徳森　：へ？

早坂　：でもどうしてだろう？しかられだきなんだって。あの部たちの舞った。。。いる。

---

（アトリエに戻って、早坂が歩く、ドアを閉める、早坂が驚いた、嵐と美和子がいちゃつく）

美和子：Caroline！

早坂　：（驚いて、ドアを開けて）（Isabela が来て）

Isabela　：Carrie、いらっしやい！

早坂　：Isabela、だめいいの！

Isabela　：へ？

美和子：ごめんね Caroline！もういいよ。

早坂　：鬼がにってる。

Isabela : あらあら、お客様名前だはしたないよね。あなたがちょっと話と。

美和子 : だった、嵐が。

早坂 : うめ、とりくすけた？

美和子 : うん。だから嵐の強くのするよ。美和子の人もの。

早坂 : (びっくりする)

美和子 : なまえとり、なまえられとり、よかった巫女られて少しのが美和子の水。

嵐 : 美和子！俺怒られるそうね！

全部 : 笑う

Isabela : 今度身だな馬鈞よ。

美和子 : へ？馬鈞？(ジョウジも来て)

早坂 : は？(melihat ジョウジ)

ジョウジ : 来てか？

---

(アトリエの中で)

早坂 : 愛妻らも雑笑うの？

美和子 : え？

早坂 : 美和子ちゃん、すぐったえ。

美和子 : 動かないの、州寸できないよ。

早坂 : ね、パラダイスキスって、あのドアのところ書かてよ？

美和子 : 私達のかよにんで作ってるよ。このご覧きえてよ。“パラダイスキス”、基壇になったら会社にして、じゃんじゃもけるの。嵐がそう言うの。

早坂 : 会社？

美和子 : うん。美和子はそうきれいしても見ない種理からいいか。実はもうお作表なんちゃがも作っていた考えて空のいい。世界家に敗れる中前にうれしいよね。

早坂 : (空想)

---

美和子 : Caroline のサイズのできました。

嵐 : ああ。。よかった。

美和子 : Caroline のポチヨポチヨするの。

ジョウジ : 感じて！

美和子：はい。

ジョウジ：えっと、バズとが83cm。

早坂：何見てるの？へんたい！

ジョウジ：へんたい？

全部：笑う。

早坂：その体のサイズ！

ジョウジ：それは見せてもらえで作れない。

早坂：だから、モデルの難から言ってるんですよ。

嵐：じゃ、何してなんだってお前は。

ジョウジ：hahh...!!! 美和子！

美和子：hem？

ジョウジ：以後に荒れ、着せてみて！

美和子：いいの？

ジョウジ：うん。サイズもう大丈夫な思うんだろう。

---

嵐：は？やっぱり嫌な。

美和子：驚いてよ！サイズどくもびてるん何でも。ジョウジが見うんためにつけたなのに。

早坂<sup>ゆすう</sup>：湯数？

Isabela：似ずのデザインなんとしてよいつも尊前。世界たらどぜ。

早坂：（鏡で自分を見る）

---

（車の中で）

早坂：ね。湯数とさあ。

ジョウジ：へ？

早坂：（お前は思えが若竹ないんだ）何でもない。ね。お母さんひっぱい高いとことある？

ジョウジ：へ？

早坂：子供のところから、テイスト炉形成が悪いひっぱたからきてね、うち後とするなてひっぱいだからいて。追わする問題泣いてた宝いたのか、そんな喚起をだとさ。子供あいつただからびくびくして、雪なと思て泣いて。できなひるドルにさ。試験に押した、できる悪い私の、おいてとこと。。。だから。今日と下のこいつだったのかなあ。あの心ついてだと気から勉強勉強だ、別しないで考えてのこともあったし。他人は

私のいやないて油脂。胃炎だがいうけど。。。さ。(melihat sekitar) あ。  
違うよ。家口じゃない。

ジョウジ：別の場所に事もって。

早坂：どこ？

ジョウジ：選ぶホテル。

早坂：は？

---

(ホテルの部屋で) (早坂が怖かったら部屋の見せて)

ジョウジ：先に shower 浴びる？

早坂：へ？

ジョウジ：油種する問題によ。気にしない。

早坂：維持に？(怖い)

ジョウジ：(近づいて帽子を脱がそうとした)

早坂：(ドアを開けようとしたが、ジョウジによってブロックされました)

ジョウジ：自分の死あてから。

早坂：またの出来の死なったね。

ジョウジ：いやする。(ジョウジはマットレスに落ちるまで早坂を押した)(ジョウジはキスを試みたが、早坂は拒否した)

早坂：いや！！！！

ジョウジ：字としてるよ！(ジョウジはキスを強要した)自分の知る歩いてほしいで深部人ですが、雪仲井間ら所母親のして、アトリエに来たのは。僕誘う区間バーリや手見せるのは祖する馬身節にできる方の自分の一生僕に何だよ！維新以内にモデルする出来わない。昨日に。。。どないた。自分してるの。

早坂：好きですれば！あなた中大気だ。あなたのスクレ弟子のなんて。私のちゃんに形もない。私の意志はあなた。。。この祭服。千家区でも言うの進学制服着ている、私がどれだけ頑張って、この制服の手にだ思っているの？この制服が私のプラ江戸。あなたになめられる覚えなし。

(ジョウジを押してから去る)(ドアの前に)モデルくらいやっているわよ！(ドアを閉める)(ホテルにカバンが残っています)

---

(学校で)

徳森：おはよう！

早坂　：おはよう。

---

徳森　：早坂、何かあった？

早坂　：いいえ、武神壁。

徳森　：すらかった一瞬サボるけど。

早坂　：へ？

徳森　：僕も最近切ってるからさ。受験なんとなれらさいけど。

早坂　：徳森君？

徳森　：なるよ！どうそれ、遊びに行って？

早坂　：でも、私の生徒徳森君、受験をしていいだから。

徳森　：じゃ、しかつたないね。二人で頑張ろう！早坂の姓さばれなくなちゃったの。

早坂　：（笑顔）

---

（アトリエで）（早坂の携帯電話が鳴る）

嵐　　：うわあ！人も電話よ！

美和子：でも絶対手もないんだよ！

嵐　　：そうかしんないでよ！

---

（駅で）

早坂　：じゃ、私夜ところがあるか。

徳森　：じゃ、明日学校で。

早坂　：うん。

徳森　：（ジョウジと話す）あなたおせいですか？早坂が家混んでるのは。

早坂　：徳森君！

徳森　：早坂に月本のやめてください。僕はよろしません。

早坂　：へ、ね。ちょっと徳森君、どうしたの？（美和子を見て）あ！

美和子ちゃん！ああ、負わさずオブてくれたんだありがとう！

美和子：（徳森君を見て）

徳森　：美和子！

早坂　：へ？（お互いを見る）

---

（レストランで）

早坂　：何このちゅそつと？

徳森　：僕と美和子、そんあ同じ身なんだ。このまころまじたんして。

早坂　：そうだったんだ、すごい凝然。

美和子：行全じゃないと思う。

早坂　：へ？

美和子：嵐が世とってから、Caroline むずけた時に最初の来ているし  
とためについたって、あの子のヒロ君と同じ姓学校へに変えてるだけ。

徳森　：嵐は元気？

美和子：元気だよ。

徳森　：そう、あ、嵐とも同じもなんだ。僕たち 3 人。（過去の思い出）

（美和子：待って！待って！

僕たちを幼稚園も小学校と中学校も同じで、僕は精製、嵐と美和子矢澤学校北ではいつも一緒に。

嵐　　：迫真だよ。お前も美和子ことが好きじゃないわ？

徳森　：好きでは。

嵐　　：だったらいいか、俺たちがどこどうしよ近いよと照るんだ。

徳森　：使い？

嵐　　：俺たちは一生美和子のそこ花見で、どんな竜牙っても美和子から舐めたほうが、まげや。美和子のそばにの食ったほうが、美和子およさみできる。

でも、それぞれ進学して、僕な言うが引っ越してこともあって、自然としゆことも少なくなったんだ。

美和子：どうして比呂君と会っちゃったなの？

嵐　　：もうが昨日ところが違うかが、お前俺とつきやってだろう。

美和子：それがとして？

嵐　　：比呂、比呂の彼女を考える捨てる。それがお前小名、すよきのそうや。

---

徳森　：急にごめん、近くまで来たから、嵐と美和子はやってる待って  
もいたくて。嵐は？美和子？

美和子：ごめんね比呂君。

徳森　：へ？

美和子：美和子と嵐は彼女だから。もう会いに来ないで。）

---

徳森　：あ、そうなんだ。早坂がモデルに？

美和子：美和子とみんなちな図モデルんだよ！

徳森　：へ？

美和子：それで、ジョウジがデザインな。

ジョウジ：小泉ジョウジです。

徳森　：あ、どう思う、すみません。（全部が笑う）

美和子：。。。いいかったもういいのね。

徳森　：どういうあいかた？

美和子：おとものちないかった。あ、比呂君も show もに来る？

徳森　：いつ？

美和子：ちょっと待って！

わたしのかったもういいが、3年間も用務すまなかった竜牙へと分かった。徳森君は鈍感じゃなくて、私のことなんで、眼中に買ったなんだ。徳森君には好きな人がいた。初恋の人、きっと今でも大好きな人。（早坂は恥ずかしい、中田ジョウジにひそかに気づいた）

---

（家で）（夜版、ドアが母親にノックされた）

お母さん：ゆかりちょっといい？

早坂　：何？

お母さん：湯型先生から、連絡があって。あなた今をまもちゃっ多大島部内って。

早坂　：お母さんごめん、お至急ならしたきゅうんから。

お母さん：ゆかり！

早坂　：受験、受験って、私が岩らあるんだからね。

お母さん：明日から、糧教師の先生に来たもらうことにしたから。

早坂　：へ？

お母さん：学校と塾とかって教師試験はまだと少し頑張れるだよな？

早坂　：受験まで磯休みないの？

お母さん：hah。と何か月かじゃない。

早坂　：一日も？私は友達他のまれろことがあるんだけど。

お母さん：何は？

早坂　：ファッションショーのモデル。

お母さん：へ？

早坂　：やってもいい？

お母さん：（信じられないように、眼鏡を修正する）何の話？いつ？



早坂　：ショーはすぎなもぎ試験の前。その前には色々バレロかも死ねんないけど。そんなちょっと顔出しだけで。だから、糧教師の先生差もういいよ。ファッションショーが終わったら、自分で勉強でできるし、何ならもう塾辞めてもういいかも。私なってshow国勉強したく、世界でないし。お体つてもたって。。（お母さんが早坂をたたく）

お母さん：そんないうわてたこと。考えてるから！

早坂　：どうしてそうすぐ別の？！

お母さん：とにかく、明日学校終わったら、すぐに帰てらした。糧教師の先生は7時にいるから。

早坂　：帰らない！！もういいよぞ。

---

（アトリエで）

嵐　　：それで、家出してしたのか？

早坂　：した、そうしょ？

美和子：Caroline、私達の正味出るためにいすくまで？

早坂　：した、そうしょ？

美和子：なぜ、新しい。。。じゃない？

早坂　：そうか？

嵐　　：へい。。！！

Isabela　：それたしことね、家だないいいことも紛らし。

早坂　：そうか？

嵐　　：だから、ちょっと待って！

美和子：Caroline！なろ彼島テインとかみんなられるんじゃない？

早坂　：彼氏待ていい？

嵐　　：俺が、上司が荒れ是ねぬんだよね！！！！とにかく家に帰ところされにはやまら。

早坂　：それは絶対に嫌！

嵐　　：あのな、そこまでしてくれては湯てねの！や、時勢はありがたい気持ちにいっぱいだけど。

ジョウジ：な、いいじゃないか？

嵐　　：お前も苦！

ジョウジ：ありがとう、そしてお前のゆかり俺たちお延がする。

早坂　：ジョウジ？

ジョウジ：結構お前が他連人をしよが字母国はちょうが俺にはなのために、超和え。

早坂　：お前多恵氏は。

ジョウジ：仕事はともかく、プリアゾ働くいいか？うちに来るか？牧井恵麻。

早坂　：ジョウジの部屋に？

ジョウジ：売れの部屋上手化？

---

（ジョウジのアパートで）（早坂はアパートを見回した）

ジョウジ：こちだ！

早坂　：お！やっぱりお金持ちの別の。

ジョウジ：客室意味だ！ここならホルムとトイレらし。

早坂　：ああ。。（洋服やトイレタリの手配）

---

（アトリエで）

美和子：おわ！Carolineがジョウジの徳ガニ食べられちゃ！

Isabela　：大丈夫、ジョウジは和目が獅子。

美和子：ジョウジと獅子？

---

（ジョウジのアパートで）（ベルが鳴ります）

お父さん：誰がしてのか？

お母さん：女の子の靴があってる？

お父さん：女のもの来てだから、この部屋にあってがったら！相変わらずタイのとりがベ菓が。

ジョウジ：何のよ！

お父さん：今日はふつつと父親の気分が沸いては。一行がさしぶりで丘に行かないか。

お母さん：いいや吉名の！誘う出来もだ！このは最近ドイツの壊するか。

（ドアが。。）

お父さん：なんだ？

お母さん：やっぱり大がしってるのよ！山物は誘うたいしょんしますよ。

（ジョウジの父と母が去る、早坂が部屋を出よう）

ジョウジ：今全然に磐田のか？

早坂　：うん。

ジョウジ：じゃ、飯でも国いいか？

早坂　：今着て他のお父さんとお母さん？

ジョウジ：売れる氏はいないよ。今のは俺オウダウなとそんな愛人だ。

早坂　：へ？

ジョウジ：俺は同課のいらしゃんだ金持ちが間違っって愛人に寝ました子供。おふくろは家の弁健祖する親父はために来て、気が思えたらこちらにも、顔だ、そういう喚起だ。

早坂　：（理解にうなずいた）

ジョウジ：あ！いうそばなにする？筆耕氏はのそば。（笑顔）

---

（夜版）（早坂が寝られない）（ジョウジがホテルにイメージネーションする）（早坂がジョウジの部屋を見えます）（早坂が居間で作品を見る）（早坂がジョウジの話すをイメージネーションすること）

ジョウジ：俺は同課のいらしゃんだ金持ちが間違っって愛人に寝ました子供。自分のしてあるんし、全部人の姓があってるんだよ！

---

（朝）（早坂が起きます。ジョウジが早坂をそばにいる。）

ジョウジ：おはよう！

早坂　：何してるの？（びっくりした）

ジョウジ：寄らせてくれないから、寝顔だけ見てた。

早坂　：カギは？

ジョウジ：俺の部屋だから。トン戦の俺が持ってる！

早坂　：いやあ！（はあ）

ジョウジ：朝ご飯で来てるから、食べよ！

---

（矢澤学校で）

ジョウジ：おはよう！

Isabela　：おはよう。

嵐　　：どうだゆかりは？お前かしらまでしてねだろうな？（笑顔）やっぱりカワイ！やっぱいか！！

ジョウジ：事故区域になの、次はとくしゃはしだ。（笑顔）

---

（アパートで）（早坂が仕事を。。する）

早坂　：くしゅくしゅ、こしつみたの。子切除。Hah！夢イ進学の実行しなけ何々の全然。

---

（矢澤学校で）

ジョウジ：正史さん。

如月先生：や！小泉ジョウジ君！

ジョウジ：この言ってた仕事ないか？島田に来てるか？

---

（撮影場所）

早坂　：なんだ私がこんな所に？

如月先生：仕事を探したいんですよ！この保健所員欠なのでめいやんだよ！

早坂　：だから、何か私？

如月先生：ゆかりちゃんなら、僕も全然して問題よね。

あの人：早坂さん、少々お願いします。

如月先生：小、出なんだ。かもっとれ。

早坂　：ちょっと、すみません。（ジョウジに連絡する）

ジョウジ：はい。

早坂　：判田バカじゃないの！なんで蔵のもでるしごとなめよ！私できなさないじゃない。

ジョウジ：笑う美々高？

早坂　：私はこっから逃げる。

ジョウジ：そんなことしてるも仁後とした持ってくないじゃない。

早坂　：招くなくっていい、そんなの知らない、私出来られないじゃない。

ジョウジ：できなくてよれ、俺と誠二さんのカワイとレンジ。。カワイじゃない。その時は俺が直接時刻まで案内しよ。ゆかり。

早坂　：何よ？

ジョウジ：やれない人間にやれと会う磐根。俺たちが見せてお前が。プロのモデルがいる悪露取するだけいやないや。

---

（ジョウジのアパートで）

早坂　：どう？記念一枚もらってきたんだけど。

ジョウジ：けにもらやの恥ずかしい。

早坂　：どうなんのよ？

ジョウジ：ママだなあ。（早坂が kesal）像全やその方うりあのか？

早坂　：うん。立ってこれが一番雪です。

ジョウジ：プラエロか。俺だも好きなの素敵だねいいのに。

早坂　：へ？

ジョウジ：うん。（部屋を指定する）

ジョウジ：今まで俺は作った服だ。（早坂は睨みつけて周りを見回した）

あ！それは5歳の時に初めて作ってそうな。

早坂　：判田って5歳時から良い作ってたの？

ジョウジ：県債とそういうんだらう。

早坂　：大津得たのか？

ジョウジ：お前と同じだ。母親に君ろりと日歩くにも。生まれ持った冴え大に君ろたちにあるくにも。それがに道ある気をがなかった。人はそれは遁世とよし、手はそれは富士をという。

早坂　：世するにこの部屋はあなたの出来しか？

ジョウジ：だから、この部屋にある服は俺つまりがない。すべてに思えが詰まってきた。生まれた初めて作ったく、初めて自分の意地取りにで帰宅。

早坂　：うん。でも何かそれ持ったない気がする。こんなにきてきなのに。

ジョウジ：売る気はないけど、いつまでも小屋って飾っておききまないよ。

早坂　：へ？

ジョウジ：いずれはだれか多恵氏綱の人に来て盛らずまりだ。

---

（アパートの中で早坂が勉強します。かおりが来てくる）

ジョウジ：なんてが誘うな思うだ。

早坂　：悪かったね。（ベルが鳴り）

ジョウジ：誰がこんなしたの？

早坂　：お父さんとお母さんは昔だ？

ジョウジ：はい！

かおり：ジョウジ君！遊ぼう！！どう栗なんだけど！

友達　：かっこい！

かおり：栗モア論だよね！そうどのかわいですよ！！

ジョウジ：ゆかり、次の隅まだか？

早坂　：どういふなんてしたことない！

かおり：ジョウジもいる？

ジョウジ：いるか？少々きまったのか？

かおり：きまった。

友達　：すごいよね。ふいらんじあのデザインな！

かおり：あっちの典さん邦画もつとすろよ！卒業したらパリーんだから！すぐ間どんどん！乾杯！

ジョウジ：（早坂と話す）縄井口があるだ！ゆかり、

早坂　：パリー来ない？

ジョウジ：まだ決まってない、い凝らさせて気です。

早坂　：あの美条痕大どういう関係ね？

ジョウジ：簡単言うと、下、下、下、してない思うだ。

早坂　：へ？あなたと家具実にお父さんの息子だわ。

ジョウジ：（笑顔）

早坂　：して女いい一番気なる。

ジョウジ：お前どもしてないじゃないか？

かおり：へい、ジョウジ！あの部屋見てもいい？位以内にあのあって。

ドレスの部屋。部屋自問名の下れけでワクワクするの。

友達123：そう、見たい！！

ジョウジ：酒草毘の部屋にいろな。大事な服だったら。俺が見てみて女石笠原素内にだから。

かおり：hem？じゃこのお前は私のこと認めてなんだ。勝手に見てくるよと！

ジョウジ：かおり！忌みすぎだ。

かおり：いいじゃんちょっとぐらい！

早坂　：腰らかゲストルームです、見てくださいこの眺め。

かおり：えっと、私が見たいのこの部屋じゃないなのって。

早坂　：ジョウジとどういうトカゲですか？

かおり：へ？

早坂　：加賀ド級戦の影それかもそれいいどうかとか？

かおり：あ！やきもち？ごめん、突然気が。でも安心してジョウジ何て岩茶にないから、私のお前の前にあるじゃないわ。スカル二人夢だけ。それと良い字。県債から良貨がったなんて、留学した四時から着られろか。なんでも力こつやりもちいないして、あいつアパートやめて笹と完

全させて。負ける網があって、ただそれだけ。でも大丈夫？ファッションショー目前そんなこと言うって。

早坂　：へ？

かおり：モデルってただドレス気が歩くだけじゃないのよ。

ジョウジ：これじゃないやってね？

かおり：いや！の熊サイズに。

ジョウジ：本当に誤球なら、その由じゃ性の荷駄ドレス。ちょっとのよ！

かおり：巢中もできたよ！最高四奴が、すしょうくはいに show の油症もいただくから。

ジョウジ：おざけるな？こちも錯節新ドル。

---

（アトリエで）

ジョウジ：そのドレスをやめた。

嵐と美和子：は？！ちょっと待って！

美和子：ジョウジ、何言ってるの？

嵐　　：もう歩くの！できたんだ！

ジョウジ：こちら良いだろう！

嵐　　：こちら良いじゃない！

美和子：少しころなんてな、ジョウジへ。。

ジョウジ：こちじょ！

美和子：こち？その買ったなことじゃ泣いて。

---

やざわがっこう

（矢澤学校で）

ジョウジのお父さん：如月先生でしたから、越して会いながらプロの。

如月先生：あ！小泉ジョウジのお父さん。かっとかよ。

ジョウジのお父さん：ちょっと時間いるしした？

---

（レストランで）

如月先生：小泉ジョウジ君の将来ですか？

ジョウジのお父さん：措置に思う名次回が辞めてして、学校が行って。

息子過ぎに字手考えて八子といらっしゃいね。そんな私たちは俺ですよ。

ジョウジは。。よ服多としてやっぱりやって毛集ですか。どうがしたんだいこいっても。

如月先生：小泉君はつろにだったら、すごいさんですよ。人は生きながら品手呪文際のむつけるせいします。けれど、小泉君は最小それがあつた。当たり前のゆつが作れ。お蓮人のデザイン服には固有してるのと同じです。彼がプロのしては、じゅ。。。作れません。ゆくそもやくがあり。。。作られる。今までも医師に呼吸して他人だが、突然去れ。。。作られったら、来ずで。。。。

ジョウジのお父さん：黒し出せ。おれ。。。もなんでやった人うれしいから。それだけ、聞かれ場へした、安心してあいつ。。。返せ和えられるんだ。

如月先生：小泉君、サラリマンですか？

ジョウジのお父さん：折るですか？世界の人來てるのは。。。我々ですよ。

---

(アトリエで) (悲しい)

早坂　：おはよう！

(パラダイスキスアイテムが返されるのを見る) (美和子と一緒に物事をまとめる)

早坂　：ね、これなんだろう？

美和子：いたか版画としてたパラキスを泣く。手根はてされてきちゃった。いちゃくれなかった。みんなとしてきなくほしくなかったのね。

早坂　：そんなことないよ！私は欲しいも。

美和子：でもこれで喫すんだついて、残念だけど、パラキスは返さわ。

早坂　：帰さ？

---

早坂　：返さんて？

ジョウジ：帰すからそういうがそこだ。みんな出て楽しいから、それは長さ稲なら、亀甲らでなければ変え産する。これからみんな、それぞれ人でやって。俺は show が終わったらパリに。いろなメゾン思うわって、楽しそう旅だ。

早坂　：とりぐらい？

ジョウジ：さ、衣装しよかもな。だから、今作ってだろーですが、みんなで作る最後のドレスなる。(恥ずかしい)

早坂　：みんなで作る、最後のドレス。(心話します)

---

(早坂は家に連絡します)



弟　　：もしもし、早坂です。

早坂　：あ！卓、お母さんは？

弟　　：今いない、すごい怒ってるよ。今までに一番怒ってる。お姉ちゃんもう帰って来たら？念手なんて疲れるですよ。お父さん関心そうについでないんです。お母さん、お父さん早くと思ってきないから、大変なんだよ。僕たちのことです背いっぱいなんだから。

早坂　：あなたと本当他それ遥かに由修。卓、お母さんにしたいというか。

---

（時間が。。。）（矢澤学校で）

美和子：Caroline！

早坂　：美和子ちゃん、来てよ！

美和子：一生に損で週にくれぶえに、ジョウジも着ている。

早坂　：うん。

美和子：強化でもしたの？

早坂　：ううん、してないよ。

---

（meetingroom）

嵐　　：あ。。と何枚何これ？！

美和子：まだまだあるよ！あち！

Isabela：気を付けて。

早坂　：ね、私もなんか鉄がか？

ジョウジ：仕事手を出すんだ。

早坂　：ああ。。そうーですか。

Speaker：最高性能の皆様のしらくしまう。間もなく、右側 3 年生による、**ファッションショー**に働超え行ってしまう。なんてその方はこそ背は瀬間に下さい。

ジョウジ：いよいよか、いいか？

早坂　：うん。

---

美和子：どうしたの？

嵐　　：そう、上手くなるただ。あるかいやけど。それ子としらけしないことたこれ。

ジョウジ：アインが事みたい。ある方初めて見た！！お前は独占のロボットか？！！

美和子：そうだないいよ。Caroline のいやなんてやったことにないんです。

嵐：いたがら、そうなのかですね。筒ります折がいいの！

かおり：あ！使ってる？別所とか、お邪魔しました。

嵐：なんだの言うだから？きれいらし。

早坂：私天使して来る。

ジョウジ：30 分に戻ってろよ！すり。。。だ。

---

（が終わったら）

ジョウジ：由敬ものな見える。今さうそいな。

早坂：私舐めてた、この優しいから。。。だけ。

Isabela：絶対氏が。最後ドレス来て、失敗するできないいのよ。私取れだけ。全然試験じゃなかった。

ジョウジ：いつもことだ。今までに一番とお礼氏だろうあるのか？お前の全部不利だ。頑張って類悩んで人と違う俺。（怒る）

Isabela：ジョウジ。（早坂が泣く）（ジョウジが机を。。。）

早坂：ごめんなさい。

Isabela：私はね Carrie、あの心付いた時から、自分が男ことところにとても岩県があつたら。中身は女ことなのに、男の子としてなければいいけね。毎日しらくて知らなかった。だけど、小学校 3 年生の時に、区安目がジョウジ様こと千明あつたら。しばらくして、ジョウジが手つくりのドレスプレゼントしてくれたの。それまで、ずっと泣いてばかりか私が、貴いチャットドレス掛けだ生まれ変われか。女の子名越して、きれいなお横切れば。なんとでもうまらけかわれる。美しよ、そういうわ。人に幼稚園ちしはたえるわ。私達は昇進して、横作りすぎてきたのか。私達の作ったドレスを着れば、あなたも良きのほうがかかるかしら。（早坂が笑う）

---

（ファッションショー）（嵐と美和子が走る）

嵐：早い！

美和子：じゃ、待ってよ嵐！そんなに早く勝ち目なるよ！ああ。。。あまりやってわ！（徳森君と会う）

嵐：何しにした？もう会いくの！

徳森：今日は早坂鬼に来たな！

嵐 : ほら早くから、もうショー待っていく。

---

(。。。の中で)

嵐 : ゆかりのでもう？

Isabela : 次の次の次よ！

嵐 : まかまします。歩けわ！

美和子 : あ！香ちゃんのちんくだよ！香ちゃんはよいつくったね。

Isabela : 俺なら罪をお連打す。

嵐 : やっぱ大きい出来たら。

---

( )

香 : お疲れ様！すごい良かった！ありがとうね！（抱える）  
かか

早坂 : かの地もの頑張ってきたなね。

ジョウジ : 当たり前だ。頑張らぞつかめろものいけない。（hah）次の像。  
手！

早坂 : は？

ジョウジ : 左手。俺の希望だ。お前によくなつてし。

（ジョウジは早坂の手に蝶の指輪を固定した）

Petugas : お願いします！

ジョウジ : ゆかり！まっすぐにあって歩けなくていいんだ！ナスくなついても曲がってもそれが自分ナシならいいんだ！自分ナシなるいて声。俺がここね待っているから。

早坂 : 大丈夫。任せて。こんな私だけど、誰よりもどうだったある言ってる、みんなが売ら良いぐらいに、どうだったある言ってるせ、この会場にすべてに人、私がパラダイスといて。

---

（早坂がファッションショーを始めます）

嵐 : そうゆかり！

美和子 : Caroline 長素敵！

嵐 : あと少しこのだよ！（早坂のお母さんが見えます）（早坂が泣きます）（ショーを終わったら、観客は拍手）

早坂 : どうだった？私ちゃんと歩けず他？ジョウジ？（観客は拍手）  
この手、私たち？（ジョウジが早坂とキスする）

---

香 : ありがとう！！ありがとう！！

早坂　：なんて二なのよ？

嵐　　：笑ったら、大人のタイにしてる。

早坂　：女にお客さんいる頃くれたの。

ジョウジ：あの完成は終わろで垂れたので、俺たちのドレスじゃないよ。  
最後のマスもう終わったなあ。

嵐　　：ゆかり！最初の嫌いだったけど、今お前のこと大好きだぞ。

（早坂が笑う）

---

（学校の敷地内で）

徳森　：残念だったね、僕は早坂の Tim とよさめる。

早坂　：ありがとう。

嵐　　：うぞつけ！本当売れな他ナチなさめんたんだな。ごめん、以上  
タンです。（全部笑う）

ジョウジのお母さん：何そんなに残ってるの？

ジョウジのお父さん：なんで二何だ？愛児な事始めよかったじゃない  
か？

ジョウジのお母さん：こんな子供の遊びだって言って沢岬の。

ジョウジのお父さん：子供がまぎるところに見たいのなんか言うか。

美和子：あれ！昔がジョウジの。

徳森　：卒業さどうするんだ？

嵐　　：心配すな！もう矢澤学校予備機のアトリエです。磯が決まっ  
てる。美和子モズだ。

早坂　：そうなの？

美和子：パラキッスのどれなかった鉾転換。

嵐　　：俺と美和子屋へにそうだ。

徳森　：c k、筆耕氏さなければ。

嵐　　：本気に今日はきもっての距離、お前と美和子おり。俺と美和子  
ほうが近らとだけ！

美和子：ううん、嵐が筆耕してたら来て比呂君と近いいい。あ！Caroline  
と比呂からどうするの？

徳森　：僕は与点どり受験するね。早坂どうするの？

早坂　：私も受験する。

徳森　：そうなんだ。

早坂　：うん。なんで？

徳森　：あ、いや。世界道の際や見つかったのに。

早坂　：際の方？

徳森　：も泥いたよ。来るのモデル見たいて。すごいきれいね。（早坂は気を失ったふりをした）

美和子：Caroline！重い。。

早坂　：えと徳森君、バカじゃないの、きれいだなって！

徳森　：いやだなあ。早坂がどこに迎えにしろ。今度は離れる気わない木米。（全部が笑う）

---

（。。。の中で）

早坂　：お母さん。今日は来てくれたありがとう。私。。

お母さん：とにかく、戻ってら氏？家田内心配かけて。

早坂　：ごめん。

お母さん：ゆかり、もうお母さんあなたによい世界当たりしないから、やりたいことやりなさい。（うなずく、早坂がお母さんを抱えながら、泣きます）

---

（ジョウジのアパートで）（掃除しながら、手紙を書きます）

早坂　：お世話になりました。家に帰ります。

---

（道で）

ジョウジ：挨拶もなしに出て黒か。なんて出言いさし思うだ。

早坂　：もうしょうも私酔わないですよ。

ジョウジ：家に戻れるか。

早坂　：うん、お母さんを帰てくれて。

ジョウジ：そうか。

早坂　：短い打でしたけど、お世話になりました。

ジョウジ：ゆかり、よかったら食事でもいいた？

早坂　：あ、ごめん、今日は徳森君約束があつて。

ジョウジ：デートか？大事のデートにそんなさえないふり期のか？

早坂　：へ？

---

（服屋で）

ジョウジ：デートに来て右側層俺が何で。

早坂　：ジョウジ！

ジョウジ：レストランのどこのあですか？

早坂　：ね！

ジョウジ：まかせらて、俺が最高の同じだけであるから。

早坂　：そうじゃなくて、私はこんな所で顔に糧がない。

ジョウジ：デートはレストランじゃなくて、対象一色だなあ。

早坂　：そんな言い方しないで、髪ですよ、髪です。

ジョウジ：ま、髪何からでなくてもお世話れ歴では。この手呂服てろふくを今の釣りよか。この天赦はデザインスト服は売れのわけだ。えっと、これはいいか？うん、いいの、うん、悪辛い。すぎないだなあ。

---

(。。。で)

美和子：Caroline 遅いね。

徳森　　い：良いから。美和子は帰ろよ！

美和子：いやだよ。比呂君は Caroline 呼格するところ見たいも。変気だよ。Caroline のヒロ君のことな好きだから。

徳森　：だといいけど。

美和子：税に辺地3年から思う方してたんて言ってたし。

徳森　：そうなの？

美和子：消すかの方の？に振りなあ。。やっぱ二人お似合いかも。

徳森　：美和子。

美和子：へ？

徳森　：おねがいだから。帰ってくれ。

---

(マイクショップで)

ジョウジ：どうしょ？(早坂が帰る)

早坂　：帰か！ついてくるな！なんでそれ楽しをなのよ。私がほかのことデートするのに。何やその服なんて選んでろわけ？！全然似替えかない！なんでキッスなんかしたのよ！一人でパリにいちや癖に！私はモデルになる。プロのモデルになりたい。今日は本当に時々したいから、なりたいて学校ある方けど、もう一なりたい何度もうなりたい。

ジョウジ：そうか？

早坂　：私なんかになろうと思う。際にあるから。

ジョウジ：だからお前は分かったないんだ。夢をしかもの際のじゃない。思いだ。お前の思いが思うなら必ずなれる！自分の可のお背に投げ派にも始めならないよ。何とかなる、俺はもそばにはいてやりないけど。一人で壁か？

早坂　：壁、甲から一人で頑張る。

ジョウジ：それじゃ、天気だな。

早坂　：さようなら！

---

徳森　：早坂！

---

（ジョウジのアパートで）

Isabela：イスラ子午線中寝顔せるんじゃない。ある生野屋めった決まったの？愛してしまった女性をご行ってまで五七のあるのがしなって。

ジョウジ：なんだそのいます？

Isabela：これは餅の、私もパリに行くためよ。あなたがデザインのするドレスのぱ田和のことだ。私の子供所からに今、私はじゅごくにそこまであなたから離れないわ。

ジョウジ：子供の期にドレスなんかおこれすじゃなかった。

Isabela：どうするの？やめる？

ジョウジ：いくさ、当たり前を選択だ。

Isabela：美優社デザインね雇って湯生野さん材世界に墓人に女性。それはして手前るデザインなのに未来なんだあるがしら。

---

それからしばらくして、ジョウジはパリへいってしまった。私は宮繰りも嫌な方。

お母さん：（**ドアをノックする**）また寝てる？休みの段日にゴロゴロゴロゴロ。

早坂　：帰るね。

お母さん：あなたのやりたいことは寝ることだったの。ちゃんとしなさいね。

早坂　：はい。

お母さん：あなた後にこずずみと巣つていわよ。

早坂　：あいつからだ。差出にの名前暮れかけ！一人でパリにいちやった後で、私に何を置くて来た。何をあいていた。

ジョウジ：（ここにある服は売るつもりがない。すべてにお前が閉まってるから。いずれわ誰か多恵氏ら人に買うつもりだ。（早坂が泣きます）俺の希望だ。お前にはこんな後氏。自分なある足で、俺がここで待っているから。）

---

（道で）

マドカ：ヒロ何見てるの？

徳森：なんか頑張ってるなあと思って、牧柵が反こそ故谷平るてこ。

マドカ：へ？

徳森：あ。。いや！

マドカ：早坂ゆかり言ってたの？

徳森：してない！うそ！してないよ！ね、マドカ、仕事のほわ？無いでもらった？

マドカ：まだ、まだも是手へくそ！

徳森：うん。

---

（撮影場所で）

写真家：oke しばらし。じゃ一回としましょう。

マネージャー：お疲れ様です。ほしほしとか、気思い何時、僕も。。。だ。ごめんね。生みません、この後落ちましょか拍車と維持場に気、大だった七楽しんだ手。来週何欲の形よか。たよりも、戻れる。

あなたにない時間、また挨拶。あなたに見せたかった。

早坂：ニューヨークか？パリの来たの？もう3年無たちの、何蜜来ない。ちゃんとデザインなやってるの？

ね、ジョウジ、しんじわれる？これはあなたの見つけてくれたのち。最初怖くてこんな人。。ボロボロにされるあったけど。あなたの私の道よ見せてくれたんだ。そこは自分のましあるけど、でもジョウジ、私にあるに頑張っているけど、どりが歩けど、しまないね。会いたいよジョウジ。あなたに会いたい。あなたも私のことなんか忘れちゃったの？私は会いたい、あって、今度あしやしいるから。あなたのこいだした。

早坂：近き何です。

---

（ニューヨークで）

Isabela：carrie!



早坂　：Isabela！

Isabela：驚いた！これは何してていたの？

早坂　：（首を横に振った）Isabela！

Isabela：親見なさい。再開涙ジョウジために取ってあげて。

早坂　：ジョウジもニューヨーク kにいるの？

Isabela：いるわよ！今日ね二人でアメリカに来て。ジョウジの世界だが変わったの。着せ他のデザインなだけが、右側デザインじゃないの。売るためだけに世桶作は泣いて。待って、過ぎにアトリエの住所俺だけりわ。

早坂　：アトリエ？

---

（早坂はジョウジのアトリエを来て、彼らはお互いが恋しい）